

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区九段北1-8-10

## 為替週間展望 = ドル円は底堅い流れが継続か

[8月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		8月1日～8月5日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	133.30	134.55(3)	130.41(2)	133.39	+0.12
ユーロ・ドル	1.0213	1.0294(2)	1.0123(3)	1.0226	+0.0006

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,175.87	+374.23	日本10年債利回り	0.169	-0.016
ダウ平均株価	32,726.82	-118.31	米10年債利回り	2.688	+0.040

=====

<来週の主要経済統計等>

- 8日 日本6月経常収支  
スイス7月雇用統計
- 9日 米第2四半期非農業部門労働生産性指数
- 10日 中国7月消費者物価指数、中国7月生産者物価指数  
独7月消費者物価指数確報値  
米7月消費者物価指数  
米7月財政収支
- 11日 米7月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数  
独6月経常収支
- 12日 英第2四半期国内総生産(GDP)速報値  
英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数、英6月貿易収支  
ユーロ圏6月鉱工業生産指数  
米7月輸入価格指数  
米8月ミシガン大学消費者信頼感指数

【前回のレビュー】米国での利上げペースの減速観測が台頭しつつあるものの、FOMCを通過したことで米経済指標の動きに左右されやすくとみられる。ISMやPMIなどは予想から下振れするリスクが高いとみられ、ドルの上値を押さえそう。そうした中、ドル円は上値の重い展開が見込まれるとした。

【円高進行が一服】

ペロシ米下院議長の台湾訪問への警戒感から、リスク回避の円買いが進んでドル円は2日の東京市場で130.40台までドル安円高が進行した。米10年債利回りは一時2.51%前後まで低下を見せた。ただ、この日、複数の米連邦準備制度理事会(FRB)当局者によるタカ派的な発言を受けて米10年債利回りは2.748%前後まで大きく上昇して、ドル円は133.10台まで大きく上昇した。

2日にデーリー米サンフランシスコ連銀総裁は「インフレは高過ぎる」「インフレに関するFRBの仕事はほとんど終わっていない」などと発言した。エバンス米シカゴ連銀総裁は「9月FOMCでの0.50%ポイントの利上げは妥当だが、0.75%もありうる」と発言した。こうした発言で、FRBは利上げペースを減速させるとの見方が後退しており、ドルの堅調な推移につながった。

3日には7月の米ISM非製造業景況指数が56.7となり、53.6に低下すると市場予想に反して上昇するとともに前月の55.3を上回った。注目度の高い経済指標の改善を受けて、ドル買いの動きに傾き、ドル円は134円台半ばまで上昇した。ま

た、この日はセントルイス連銀のブロード総裁は大幅な利上げを前倒しすることを支持するとの見解を示した。このところは複数のF R B当局者がインフレ率の抑制のために利上げ継続に前向きな姿勢を表明している。

4日には米雇用統計の発表を翌日に控えて、ポジション調整の動きから米長期金利が低下するとともにドル売り円買いの動きから、ドル円は132円台後半まで下落した。その後、5日の東京市場で132円台半ばまで一段と下落したあとは、133円近辺での推移を見せている。

7月26～27日に開催された米連邦公開市場委員会（F O M C）では2回連続で0.75%の大幅な利上げを決定した。次回9月のF O M Cでは0.50%の利上げが実施されるとの見通しが広がっていたものの、インフレ率の動向次第では0.75%利上げの可能性も高まっている。C M E F E Dウォッチでは0.50%の利上げ確率は66%程度、0.75%の利上げ確率は36.0%前後となっている。

8月8日の週の最大の注目要因は10日発表の米消費者物価指数となる。事前予想では前月比は+0.2%、前年比+8.8%と前回（それぞれ+1.3%、+9.1%）から伸びが鈍化する見通し。コアの事前予想は前月比+0.5%となり、前回の+0.7%から低下する見通し。一方でコア前年比の予想は+6.1%となり、前回の+5.9%から伸びが加速する見通しとなっている。

伸びが前回や予想を下回るようなら、インフレのピークアウト感からドル売りに傾く可能性はあるものの、前月比がマイナス転換、前年比は総合、コアともに伸び率が前回から低下しない限りはインフレ警戒感は持続するとみられる。大幅な低下は期待しにくく、市場予想と同水準の結果となれば、インフレ警戒感は払しょくされず、ドル買いの動きに傾きそうだ。

F R Bによる利上げスタンスは継続するとみられ、9月のF O M Cでは0.50%ではなく、0.75%の利上げとなる可能性もかなり残されている。その後のF O M Cでも年内は0.25～0.50%の利上げが見込まれており、ドルの堅調な流れは継続することとなりそうだ。景気減速懸念で株安となれば、リスク回避の円買いに傾く可能性はあるものの、ドル円は底堅い流れが続くとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、131.00～137.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本6月経常収支、9日に米第2四半期非農業部門労働生産性指数、10日に米7月消費者物価指数、米7月財政収支、11日に米7月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、12日に米7月輸入価格指数、米8月ミシガン大学消費者信頼感指数などがある。

#### 【ユーロドルはもみ合いか】

F R Bメンバーによるタカ派的な発言などから2日以降、ドルインデックスは下げ渋りを見せている。また、ユーロ圏での景気減速懸念やロシアからドイツへの天然ガス供給の削減によるエネルギー危機への警戒感などもあり、ユーロは上値を伸ばしにくくなっている。

欧州中央銀行（E C B）による利上げ観測よりもF R Bによる利上げの期待の方が強く、ユーロドルは上値を抑えられやすい展開となりそうだ。こうした中、ユーロドルは強弱感が交錯してレンジ相場でもみ合いとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0000～1.0350ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、8日にスイス7月雇用統計、10日に中国7月消費者物価指数、中国7月生産者物価指数、独7月消費者物価指数確報値、11日に独6月経常収支、12日に英第2四半期国内総生産（G D P）速報値、英6月鉱工業生産指数、英6月製造業生産指数、英6月貿易収支、ユーロ圏6月鉱工業生産指数などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。